

にし阿波いちごタウン構想

目的

東みよし町水の丸地区の夏期冷涼な気象条件を活かした県内唯一の「夏秋いちご」産地を核にし、平坦部の「促成いちご」を組み合わせた周年いちご産地「にし阿波いちごタウン」を創設し、若い就農希望者を受入れ、地域の再生・活性化を図る

課題

【人材面】

- ・生産者の減少
- ・周年経営の指標がない
- ・栽培と出荷調整に手間がかかる

【施設面】

- ・施設、設備の老朽化
- ・初期投資が大きい
- ・パッキングセンターがない

【技術面】

- ・夏秋及び促成いちごの収量向上
- ・生産技術の伝承が困難

課題解決に向けて

【人材面】

- ・周年いちご栽培経営モデルの作成
- ・農業生産法人による雇用就農者の確保
- ・事業継承による栽培者数・栽培面積の維持
- ・SNS等を活用した新規参入者の呼び込み

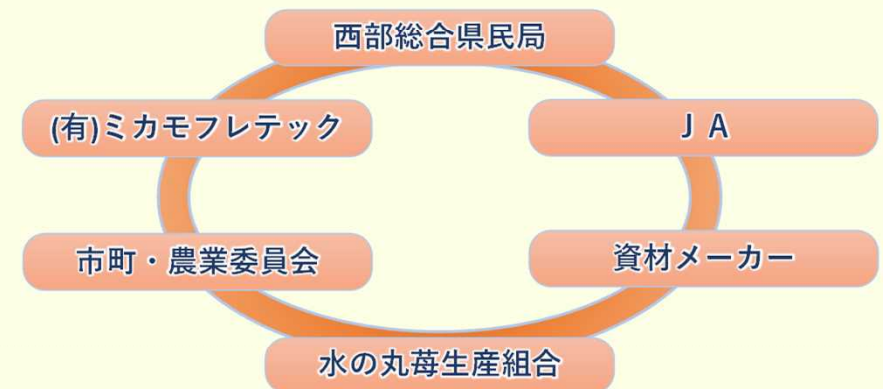
【施設面】

- ・リタイアインフラの調査、活用見込みのある中古ハウスの把握
- ・活用見込みのある農地の把握と確保
- ・老朽化施設・設備の修繕
- ・研修及びレンタルハウスの設置
- ・パッキングセンターの整備

【技術面】

- ・環境制御技術（CO2局所施用技術の実証等）の導入推進
- ・Society5.0実装化創出事業で蓄積した生産ノウハウや生産環境データの提供

【コンソーシアムの構築】



目指すべき姿

- ・ミカモフレテックに整備した研修・レンタルハウスや産地のリタイアインフラを活用した、研修から独立・雇用就農、経営確立までの一貫した支援体制が産地全体で構築されている。
- ・吉野川ハイウェイオアシス周辺への観光いちご園整備によりにぎわいが創出されている。

国内オンリーワンの夏秋・促成を組み合わせた周年いちご産地の発展、地域活性化が実現

(参考：3年後の成果目標)

のべ新規就農者数（雇用就農者含む） 夏秋：＋9戸（R8） 促成：＋9戸（R8）

生産面積 夏秋：2.4ha（R5）→3.0ha（R8） 促成：2.1ha（R5）→2.7ha（R8）

